富の神明さま（とめ）

発行所
三富、富岡総鎮守
神明社
社報第４号

〒359-0002
所沢市中富1507
社務所電話
04-2943-1709
宮司宅電話
049-259-2228

ここ数年来、雨漏りがしていた拝殿の屋根の張り替えを行いました。

新年のご挨拶

宮司　林　伊佐雄

新年明けましておめでとうございます。

新春にあたり氏子崇敬会の皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

平成の御代になり、いつのまにか二十年が過ぎ行き、時の移り変わりの早さを感じます。百年に一度の大不況と言われる今日、今年が少しでも希望と明るさが見える年になることを願っています。

さて、当神明社は、平成十八年から三ケ年に亘り神社本庁より埼玉県で唯一「第十一期神社振興対策教化モデル神社」の指定を受けました。

氏子の皆様方には「教化モデル神社事業」に赤誠のご奉賛を賜り厚く御礼申し上げます。お陰様をもちましてこの三月に指定期間は終了いたしますが、この間数多くの事業を実施することができ、当神明社の隆盛、発展に寄与すると共に、近隣の神社のモデルにもなり得たのではないかと思います。

田舎の小さなお社でも、目的を持ち、総代さんを始め氏子の皆様のご協力をいただくことにより、それぞれのお社の潜在的な可能性を開花しうることがわかりました。しかし、教化活動は、指定期間が終了し終わるのではなく、この三年間の経験を礎にこれからが新たなスタートではないかと感じています。まだまだ、やり残したこともあり、今後社頭の発展と氏子の皆様の弥栄のために初心にかえり、神明に奉仕をさせていただきたいと思っています。

また、平成二十五年に第六十二回の伊勢神宮の式年遷宮が行われますが、全国で遷宮奉賛の募財活動が進められています。遷宮には総額五百五十億円が見込まれ、三百三十億円が伊勢神宮当局の負担、残額の二百二十億円が全国の神社界でのご浄財、ご寄付となっています。

当神明社では、氏子数等に基づき二百二十四万円が割り当てられていますが、氏子の皆様のご理解をいただき、総代さんを通してご奉賛を賜っているところでございます。合わせて厚く御礼申し上げます。

今年も社頭繁栄のために取り組んで参ります。これまで以上にご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

総代会長
阿部征一

新年明けましておめでとうございます。氏子並びに崇敬会の皆様には、健やかに新しい年をお迎えいただいたものとお慶び申し上げます。

さて、当神明社は、平成十八年に神社本庁より埼玉県で唯一「第十一期神社振興対策教化モデル神社」の指定を受けました。

この三月で指定期間の三ケ年も終了しますが、大勢の皆様方には、モデル神社の指定事業に対しまして、赤誠のご奉賛を賜り、様々な事業の展開をすることができました。心より厚く御礼申し上げます。

また、平成二十五年に第六十二回の伊勢神宮の式年遷宮が行われますが、全国で遷宮奉賛の募財活動が進められています。

当神明社でも氏子の皆様のご理解をいただき、総代さんを通してご奉賛を賜っているところでございます。合わせて厚く御礼申し上げます。

本年も、少しでも社頭発展のために尽力させていただく所存でございますので、皆様方のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

『式年遷宮』

伊勢の神宮では二十年に一度、ご正殿以下のご社殿やご装束・ご神宝をはじめ一切を一新して、清々しい新宮へ大御神さまにお遷りいただくおまつりが執り行われています。このおまつりを式年遷宮と称し、今から千三百年前に天武天皇がお定めになった制度です。

以来、絶えることなく連綿と親から子へ、子から親へと受け継がれ、平成二十五年には第六十二回神宮式年遷宮が行われることになっています。平成十七年五月には天皇陛下のお定めを仰いでご用材をお山から伐り出す最初のお祭りである「山口祭」から始まり、平成二十五年十月のお神楽で完了します。

伊勢の地元民を中心とした国民参加行事は、平成十八、十九年に行われた「お木曳き行事」、五年後の平成二十五年に予定されている「お白石持行事」があります。当神明社では平成十九年の「お木曳き行事」に参宮団を結成し、参加させていただきました。

伊勢神宮とは

皇室の祖先神である天照大御神をお祭りする皇大神宮（内宮）と、大御神の食事を司る豊受大御神をお祭りする豊受大神宮（外宮）を併せて神宮、または伊勢神宮といいます。天照大御神は、はじめ宮中にお祭りされていましたが、第十一代垂仁天皇の時に三重県伊勢市の神宮にお祭りされ、斎宮という未婚の皇女によって代々奉仕されてきました。中世以降は、御師と呼ばれる人々によって全国各地に伊勢信仰が広められ、神明社が建てられていきます。

神宮大麻と呼ばれる伊勢の神札も御師が配布したもので、現在、各家庭の神棚にお祭りされるようになりました。

平成十九年氏子崇敬会でお木曳きに参加

伊勢には浜参宮と言って二見浦にて禊ぎをして参拝

平成二十年度 教化モデル神社事業報告

一、焼き芋祭り いも神様報恩感謝祭

昨年の元日と二日、いも神様に報恩感謝の気持ちを込め、焼き芋を参拝者に無料配布させていただきました。

二日間で三千本の焼き芋を五台の釜で焼きあげました。焼き芋を食べて少しでもいも神様のご神徳を感じ、幸せになっていただけたらと思います。

(1) お正月の焼き芋祭り

二、甘藷乃神（いものかみ） ご遷座記念事業・収穫祭

十月二十六日、甘藷乃神ご遷座を記念して、三回目になる収穫祭を行いました。

昨年は、紅赤が発見されて一一〇年になることから紅赤を掘りました。一〇〇名を超える方々にご参加いただき、自然の恵みといも神様に感謝し、その威徳を顕彰しました。

(2) 収穫祭

三、お神酒『富乃神明』 紅赤焼酎にて完成

紅赤が発見されて一一〇年になることから、昨年は紅赤の芋焼酎のお神酒『富乃神明』を作り、新穀感謝祭にて奉告祭を執り行いました。

原酒は四一度で大変香ばしく出来上がりました。ただし、あくまでもお神酒ですので、お札と一緒に授与品として頒布されます。川越いもを最初に作り始めた吉田弥右衛門さんのご神徳をお受けしていただきたいと思います。

(3) 紅赤焼酎『富乃神明』

四、婦人部靖国神社正式参拝

九月八日、婦人部の事業として靖国神社正式参拝を実施しました。総代会長の阿部様、婦人部部長小山良子様はじめ十名近い皆様にご参加いただきました。

当日は、正式参拝の後、遊就館の見学を行いました。参加者の皆さんは、学校や教科書ではあまり教えられない近代の日本の歴史を学ぶことができて大変有意義でしたと話していました。

こうした活動が年々広がっていくことを期待しています。

(4) 靖国参拝をされた婦人部の皆さん

五、鎮守の杜整備事業

『月の原　花の小径』

社殿奥の雑木林も、ここ十年近く山掃きを始め、リンドウ、菫、ムラサキシキブなどの山野草が顔を出し始めました。

鎮守の杜整備事業として、「月の原　花の小径（散歩道）」を雑木林内に作り、憩いの場を提供すると共に、山野草の保護育成を始めました。三十種類の山野草を植えましたが、雑木林や環境に合うものと合わないものがあるようです。根付くまで年数がかかりそうです。

（５）散歩道に山野草を植える

六、駐車場看板等整備事業

当社には駐車場がなく、ご参拝に来られた方々にご迷惑をおかけしておりました。氏子の皆様のご要望にお応えすべく、社務所の裏側を抜けて、奥の山林左に駐車場を造成いたしました。

あわせて、神社の看板、駐車場看板等も設置し、わかりやすくご案内させていただきました。

当社へお参りの際には、当神明社の駐車場をご利用いただけたらと思います。

（６）駐車場案内看板

七、婦人部境内清掃奉仕事業

婦人部の皆様が、毎月月末に境内清掃の奉仕活動をしてくださっています。

神道は、何よりも清浄を宗とします。神社に参拝する時行う手水も、身を清めてからお参りするというお祓いの意味があります。

境内を掃き清めていただくことによって参拝に来られる方々がすがすがしく参拝することができます。ありがとうございます。

（７）婦人部の皆さんの清掃奉仕活動

月の原日記

教化モデル神社の指定を受けて、三年目が過ぎました。指定を受けていなかったら、これだけ多くの事業はできなかったと思います。産土の神様のへの感謝の気持ちで一杯です◆昨年七月六日、東京オリンピックの聖火台を作られた川口の鋳物師鈴木文吾氏がご逝去なされました。享年八十六歳。当社の撫でいも、狛犬の制作監修をしていただきました。ご冥福をお祈りいたします◆いも神様をお祭りさせていただき、多くの方が参拝に来られるようになりました。中でも著名な芸能人の方をご紹介させていただきます◆いよいよ指定期間も残りわずかです。ホームページの作成等事業は残っていますが、一年教化活動は続きます。

故鈴木文吾さん

ﾚﾃﾞｨｰｽ４関口郷子さん

くじら、愛知万太郎さん

Ｑ太郎さん